



Little League

リトルリーグ北関東連盟

大会規則

I	大会規則	1
II	選手登録	1～2
III	服装	2
IV	用具	3
V	投手の規則	4～6
VI	試合の準備	6
VII	試合の運営	6～9
VIII	監督、コーチ、選手の退場	9
IX	スピードアップ	9
X	補則	9～11
添付資料1	リトルリーグ特別ルール 離塁規定	12～13
添付資料2	選手は全員出場するルール解説	14～15
添付資料3	関東選手権大会規則	16～21
添付資料4	ティーボール大会規約	22～23
添付資料5	ティーボール関東大会規則	24
大会要項	2021年度北関東連盟大会内規及び運営要項	25～30
添付資料6	2021年リトル年齢早見表	31
添付資料7	変更届用紙	32

日本リトルリーグ野球協会
リトルリーグ北関東連盟

I 大会規則

- 1 公認リトルリーグ規約、競技規則及び北関東連盟内規（本書）により大会を運営する。

II 選手登録

1 バンダリー

- 1) バンダリー内の選手に限り全日本選手権大会(リトル、インターミディエット)に出場できる。
- 2) 選手はそのバンダリー内に住むか、通学先の学校がそのバンダリー内に位置しており、リトルリーグ本部から承認された場合のみ選手資格を有する。

2 選手登録

- 1) リトル適格年齢中学1年生の登録は前年12月31日までに限り、それ以降は認めない。
- 2) 3項の規準により大会の都度定められた登録用紙をもって期日までに選手登録を行う。
- 3) 登録書に選手主将(キャプテン)は背番号に○を付ける。
- 4) 試合成立後、無資格選手(居住地や年齢証明の違反)が、含まれていたことが発覚した場合、該当リーグが出場停止処分となる。

3 選手 注、年齢はリトルリーグ年齢、学年は新学年とする。

- 1) 春季大会理事長杯 年齢 リトルリーグ年齢11歳から13歳の選手
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 2) 春季インターミディエット大会
年齢 リトルリーグ年齢11歳から13歳の選手
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 3) 全日本選手権大会 北関東連盟 インターミディエット大会
登録 選手はそのバンダリー内に住むか、通学先の学校がそのバンダリー内に位置しており、リトルリーグ本部から承認された場合のみ選手資格を有する。
年齢 リトルリーグ年齢11歳から13歳の選手
(北関東連盟では、中学2年生の参加は認めない。)
人数 9名から14名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成(最大隣接する3リーグまで)を認める。
- 4) 全日本選手権大会 北関東連盟 リトル大会
登録 選手はそのバンダリー内に住むか、通学先の学校がそのバンダリー内に位置しており、リトルリーグ本部から承認された場合のみ選手資格を有する。
年齢 リトルリーグ年齢10歳から12歳の選手
2008年4月～8月生まれの選手は登録できない。
人数 9名から14名まで 背番号は1番から連番とする。
- 5) AIG プレゼンツ MLB カップ
年齢 学年5年生・4年生(関東大会・全国大会5年生・4生)
人数 9名から20名まで 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 6) 東日本選手権大会 年齢 リトルリーグ年齢11歳から13歳の選手
人数 9名から20名まで 背番号は1番から連番とする。
(リトル年齢10歳以下選手の登録を認めない) 2008年4月～8月生まれの選手の登録を認める。)

連合チームの編成を認める。

7) KEIO CUP マイナー大会

学年 小学校3年から5年の選手
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。

8) 全国選抜大会 兼 秋季大会

年齢 小学校6年・5年の選手（全国・関東大会は6年生・5年生）
人数 9名から20名まで 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。

9) 秋季マイナー大会

年齢 小学校4年・3年の選手（関東大会は4年生・3年生）
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。

10) 秋季インターミディエイト大会

年齢 リトルリーグ年齢10歳から12歳の選手
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。

4 ゾーン/ブロック大会

ブロック大会については、年齢、学年、登録人数、チーム数の変更は各ブロックに一任する。

5 監督及びコーチ

- 1) 全日本選手権(リトル・インターミディエイト)北関東連盟大会では、ベンチ入りできる監督・コーチの人数は、選手が試合開始時12人以上の場合には、登録されている監督1名、コーチ2名がベンチに入る事を許される。選手が11人以下の場合には、登録されている監督1名、コーチ1名がベンチに入る事を許される。

選手が試合開始時11名以下になった時にベンチを外れた1名のコーチは、グラウンドに入ることも認められない。その場合、外から選手またはベンチと会話することは許されない。

- 2) 全日本選手権(リトル・インターミディエイト)北関東連盟大会以外の連盟大会では、選手数に影響されず監督1名、コーチ2名がベンチに入ることが許される。

- 3) 監督、コーチは、成人に限る。

- 4) 監督および監督代行予定者は、指導者講習会を受講しなければならない。(連盟が認めた場合はその限りではない。)

- 5) 監督、コーチ、引率責任者に変更が生じた場合は、試合前に「変更届」を提出のこと。「変更届」はリーグ3役（会長・副会長・事務局長）いずれかの印があれば認める。

- 6) 監督は連盟所定のバッジを左胸に着用のこと。

- 6) ベンチ入りできる者は、登録した監督、コーチ、選手と同カテゴリーのボールボーイ3名のみである。ボールボーイは、背番号なしユニフォームとする。ボールボーイは必須ではない。

Ⅲ 服 装

- 1) 監督、コーチ、選手は大会本部のチェックを受けるまでIDカードを着用する。

- 2) 選手は全員統一した服装（帽子から靴まで同色、同形、同意匠、アンダーシャツの白は認めない）を着用しユニフォームの胸にリーグ名の表示のある物に限る。ただし、ティーボール大会は除く。

- 3) 監督、コーチの上着は襟付きの白色、スラックス（ズボン）は下記のとおりとする。

- 1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュ各色系を可とする。

- 2) 華美な色は不可。
- 3) 全体が単一色であること。(別色のライン等があるものは不可)
- 4) チノパンは可。
- 5) ジーンズは不可。
- 6) ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下(ハイソックス、短いソックス両方可)の色は、上記「1)項」に準ずるとする。
- 7) 監督、コーチは同一の服装であること。
- 8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
- 9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。

4 監督、コーチの帽子は選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

インターメディアック部門では、監督・コーチの服装は選手と同じユニホーム、帽子を着用して良いが、金属のスパイクは使用できない。

IV 用 具

- 1 捕手は、試合及び練習中も公認のヘルメット(耳カバー付)・プロテクター(ロングタイプ又はショートタイプも可)・マスク・スロートガード(のどあて)・およびカップを着用する。
捕手の正式な装具を着用していない選手は、投球練習中であっても座って投球を受ける事は出来ない。
- 2 バットリング・マスコットバット・鉄棒・メガホンのベンチ持込を禁止する。
- 3 バットは公認の物を使用し、変形やキズのある物は使用しないこと。非木製バットで下記イメージ印字表記があるものを使用すること。



- 4 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、派手なものは好ましくない。なお、投手は使用できない。
- 5 サングラスの使用は、選手のプレイに必要なときは認める。監督コーチの使用はメンバーチェック時に確認を受ける事。
着用可能サングラスは、スポーツサングラスで反射するものは除き、フレームは黒色または紺色に準ずる物のみ可。
また、サングラスを帽子の上に着用する行為は認めない。
- 6 ヘルメットの顎ひもをきっちり着用すること。
打者ヘルメット「フェイスガード付き」および、「Cフラップ付き」を許可する。この場合、顎ひもの装備できない物も許可する。許可を受ければ守備の時も使用可とする。
- 7 グラブの紐が必要以上に長いものは認めない。
(長さに規定はないが、タッグプレーによる相手選手の眼球に入る事故を防ぐため、試合前の用具チェック時に判断された場合は、是正すること。)
- 8 胸部保護パッドを着用すること。着用していない選手は試合に出場できない。
- 9 帽子内に頭部保護用インナーキャップ(ヘッドガード)の着用を推奨する。

V 投手の規則

全日本選手権北関東連盟大会(リトル・インターミディエット大会)を除く、各北関東連盟大会に適用

1 投球数と登板間隔

- 1) リトル部門：降板した投手はその試合では投手に戻れない。
インターミディエット部門：投手は一度降板し他のポジションに移っても、控え選手と交代しなければ、その試合で一度だけ再登板出来る。但し、同一イニング中に更に違うポジションに移動した場合は、投手に戻れない。
- 2) 投手の投球数と休息日について、休息日が必要となる投球数は『その投手が対峙した最終打者へ投じた1球目の投球数が基準』となる。
例えば、投手が累計投球数18球となっている段階で次打者と対峙し、その打者に対し6球を投じて合計投球数が24球になった場合、①その打者が出塁する、②その打者が引く、③次ぎの打者と交代する、④第三アウトが成立し、そのイニングが終了する、のいずれかのケースで降板すれば記録上は、その投手の投球数は「20球以内」とカウントされる。
これは休息日数が変わる35球、50球、65球のそれぞれの上限投球数でも同様の対応です。
- 3) 投手が、1日及び1試合に投球できるのは85球、10歳以下は75球までとする。
3年生が投球する場合は50球以下とする。
- 4) 20球以下の投球の場合連続した試合に投げられる。但し合計85球迄。10歳以下は75球まで当日次の試合の場合、年齢別投球数から実投球数を減ずる。
- 5) 21球以上投球した投手は1試合間隔を空ければ、投手として出場できる。
なお、当日2試合に連続登板し、2試合の合計投球数が21球以上になった場合は、1試合空けなければならない。又は休息日をクリアしていれば、連続した試合に登板できる。但し、いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。
- 6) 41球以上の投球を行った投手はその日は捕手を務めてはならない。
 - ① 打者に対している間に投球数が40球に到達した場合次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すればその投手はその後捕手となれる。
- 7) 1試合に4イニング以上捕手を務めた選手は投手になれない。
 - ① 4イニングはアウト数12ではなく、守備についたイニング数とする。
 - ② この4イニングは1試合での数であり、2試合行った場合の合計のイニングではなく、それぞれの試合でのイニング数である。
 - ③ 試合で3イニング以内捕手を務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合は、その日は再度捕手に交代してはならない。
例外：投手が打者と対戦中に投球制限の20球に達した場合
 - (ア) その打者が出塁する。
 - (イ) その打者がアウトになる。
 - (ウ) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する。
- 8) 休息日は、1日に66球以上投球したときは、4日間、51～65球 3日間
36～50球 2日間・21～35球 1日間・1～20球 必要なし。

2 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合

- 1) その打者が出塁するまで続投できる。
- 2) その打者がアウトになるまで続投できる。
- 3) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了するまで続投できる。

3 申告敬遠

投球前に守備側チームから球審に対し打者に「申告敬遠」を与えることが伝えられた場合とする。

- 1) その指示は守備側チーム監督からなされなければならない。
- 2) ボールデッドとなり、投手の投球数は「4球」加算される。
- 3) 打者に対し1球でも投球した場合は、その打者に対して「申告敬遠」は認められない。
- 4 公式投球数記録員として競技部員または控え審判員が担当する。
- 5 投手の投球が投球限度に達したとき、公式投球数記録員は球審に通知する。
- 6 投手はボールをユニフォームで拭くことを禁止する。
- 7 投手がグラブ内にバッティンググローブを着用することを認めない。
- 8 すでに試合に出場している投手がインニングの初めに準備投球のために投手板を踏んだときは、そのインニングの第1打者がアウトになるかあるいは一塁に達するまで、投球する義務がある。ただし、その打者に代打者が出た場合、またその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合を除く。

全日本選手権北関東連盟大会 (リトル・インターミディエット大会)適用

1 投球数と登板間隔

- 1) リトル部門：降板した投手はその試合では投手に戻れない。

インターミディエット部門：投手は一度降板し他のポジションに移っても、控え選手と交代しなければ、その試合で一度だけ再登板出来る。但し、同一インニング中に更に違うポジションに移動した場合は、投手に戻れない。

- 2) 投手の投球数と休息日について、休息日が必要となる投球数は『その投手が対峙した最終打者へ投じた1球目の投球数が基準』となる。

例えば、投手が累計投球数18球となっている段階で次打者と対峙し、その打者に対し6球を投じて合計投球数が24球になった場合、①その打者が出塁する、②その打者が引く、③次ぎの打者と交代する、④第三アウトが成立し、そのインニングが終了する、のいずれかのケースで降板すれば記録上は、その投手の投球数は「20球以内」とカウントされる。

これは休息日数が変わる35球、50球、65球のそれぞれの上限投球数でも同様の対応です。

- 3) 投手が、1日及び1試合に投球できるのは85球、10歳以下は75球までとする。

インターミディエット部門で13歳が投球する場合は95球までとする。

- 4) 1試合に1球でも投球した投手は、その日に投球してはならない。
- 5) いかなる場合でも、投手は一日に1試合しか投球できない。また、いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。
- 6) 41球以上の投球を行った投手はその日は捕手を務めてはならない。
 - ① 打者に対している間に投球数が40球に到達した場合次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すればその投手はその後捕手となる。
- 7) 1試合に4インニング以上捕手を務めた選手は投手になれない
 - ① 4インニングはアウト数12ではなく、守備についたインニング数とする。
 - ② この4インニングは1試合での数であり、2試合行った場合の合計のインニングではなく、それぞれの試合でのインニング数である。
 - ③ 試合で3インニング以内捕手を務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合は、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦中に投球制限の20球に達した場合

(ア) その打者が出塁する。

(イ) その打者がアウトになる。

(ウ) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する。

- 8) 休息日は、1日に66球以上投球したときは、4日間、51～65球 3日間
36～50球 2日間・21～35球 1日間・1～20球 必要なし
以下、上項2～8項と同様。

VI 試合の準備

- 1 監督は試合開始予定時刻の1時間前迄に到着し、本部に登録書を提出する。
- 2 ベンチは組合せ番号の若いチームを一塁側とする。
- 3 試合前に選手・監督・コーチ及び用具のチェックを行う。
2試合目以降は、前の試合の4回終了後(試合進行や天候により変更もある。)に行うため、進行状況に注意し、本部近くで待機すること。
- 4 攻守は主将により、試合当日決定する。
- 5 シートロックは後攻より7分間とするが、都合でカットする場合もある。

VII 試合の運営

- 1 トーナメント試合における延長戦は7回までとし、決着がつかない場合、8回以降はタイブレーク制を採用する。
(インターミディエットは、9回よりタイブレーク制を採用する。)
 - 1) 攻撃は無死二塁から始める。
 - 2) 走者は前回最終のバッター、打者は前回終了時より継続。
 - 3) 投手は前回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げることができる。
 - 4) 以降は前イニング終了時のオーダー表継続打順とし、走者は継続打順の前の打者を二塁走者とする。
注意) マイナー大会は、延長戦は行わない。同点の場合は、7回以降より同方法にてタイブレークを採用。
- 2 1試合の投手の数に制限はない。
- 3 次の場合、打者は走者となる。(いわゆる振り逃げ)
 - 1) 捕手が第3ストライクと宣告された投球を捕らえられなかった場合打者は走者となる。
 - ① 走者が一塁にいないとき。
 - ② 走者がいても2アウトのとき。
 - 注1) 第3ストライクと宣告されただけで、まだアウトになっていない打者が、気がつかずに、一塁へ向かおうとしなかった場合、その打者はダートサークル(ホームプレートを囲む土の部分)を出たらただちにアウトが宣告される。
 - 注2) マイナー大会では振り逃げ規則は適用しない。
- 4 リーグ戦規定
試合は6イニングまでとし延長はない、コールドゲーム規定を適用する。(インターミディエット部門は7回)
 - 1) 順位の決定
 - ③ 勝ち点が多い(勝1点、引き分け0.5点、負0点)
 - ② 対戦相手の勝者(2チーム同点の場合)

- ③同点の場合勝ち数が多い
- ④失点が少ない
- ⑤得点が多い(なお、得失点の多少は当該対戦相手に限る。)

上記で順位が決しないとき、全試合の失点数、次に得点数で決定する。

5 トーナメント方式リーグ戦(3リーグ・2リーグ戦)

引き分けなしで決着をつける。その場合7回よりタイブレーク制を採用する。

インターメディアット部門は8回よりタイブレーク制を採用する。

6 コールドゲーム規定

- 1) リトル部門は3回終了時または3回裏の攻撃中15点差。4回終了時または4回裏の攻撃中10点差。(北関東連盟大会では、5回裏の攻撃中7点差を追加する事がある。)
- 2) インターメディアット部門は4回終了時または4回裏の攻撃中15点差。5回終了時または5回裏の攻撃中10点差。(北関東連盟大会では、6回裏の攻撃中7点差を追加する事がある。)
- 3) 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム(一時停止試合)とする。この場合全ての記録は有効となる。
- 4) 試合成立(4回完了、または4回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点：インターメディアット部門では5回)後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
- 5) 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合はサスペンデッドゲームとする。
- 6) 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも、先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や、後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。
- 7) サスペンデッドゲームはすでに終了したインニング数に関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。
- 8) サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに20球以下の投球数の投手は、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
- 9) 中断までの投球数が21～40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。
- 10) 41球以上投げた投手は、規定の休息日が必要となる。

7 ダブルヘッダー試合

1日2試合の試合は、7日間で2日間出来ない。

8 指導者(監督、コーチ)に関する事項

- 1) 試合開始、終了の挨拶のときに監督は、選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。
- 2) ベースコーチに指導者を認める。但し、ベンチに指導者1名がいること。
- 3) インニング中はコーチスボックスの移動、出入りは認めない。
- 4) インニング中はコーチスボックス内の指導者の変更は認めない。
- 5) 指導者がコーチスボックスに入らなくてもよい。
- 6) 指導者はコーチスボックスにとどまること
- 7) 任務
 - ① 打者及び走者への指示に限る。
 - ② なお、コーチスボックスから出て打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムの数に数える。
- 8) ペナルティー
 - ① 相手選手に対し威圧的な言動があった場合、1回目はベンチに戻す。

② なお、当該者は、その試合中コーチスボックスに入れない。

③ 2 回目は監督の退場とする。

9) メンバー交換後、ベンチ内の監督はノック・アピール・選手交代・作戦タイム・ベースコーチ・ブルペンでのウォームアップを見る時以外、ベンチを離れることは出来ない。

コーチはノック、ベースコーチ、作戦タイム、ブルペンでのウォームアップを見る時以外、ベンチを離れることは出来ない。ブルペンのある球場での使用（投球練習）を認める。

10) 作戦タイム

守備側の作戦タイムでベンチを出る回数は1 イニング中1 回まで、2 回目で投手交代。

2 イニング以上で2 回まで、3 回目で投手交代とする。投手交代後は新たに数える。

監督・コーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。このときに捕手及び内野手が集合してもよい。監督・コーチおよび選手はスピーディーに行動すること。

攻撃側の作戦タイムでベンチを出る回数は、1 イニング1 回である。

なお、守備側がタイムを取ったときに、攻撃側の監督およびコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。但し守備側タイムの時間内とする。

11) 携帯電話および通信機器(PC、モバイル PC、Pad 等)の持込み、コーチスボックスの選手のコールドスプレー持参禁止。

12) グランド内（ベンチを含む）は禁煙(電子タバコを含む)である。受動喫煙の防止の為、喫煙場所以外での喫煙を認めない。

13) 試合終了後、監督は本部席にて投手の投球数の確認およびサイン(印)を投手ローテーション表にする。

9 選手に関する事項

1) ハーフスイングは選手からのリクエストを認める。

2) 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。ただし、試合の流れや頻度に応じて、審判員が認めない場合もある。

3) 投手のウォーミングアップ時に、打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。

4) 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もしこのような疑いがあるとき、審判員（控え審判員を含む）は攻撃側監督にペナルティー（退場等）を科す。

5) 走者、または打者走者がラフプレーをしたと審判員（控え審判員を含む）が認めたととき攻撃側監督にペナルティー（退場等）を科す。

6) ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のジェスチャーとコールをする行為を禁止する。又コーチスボックスを出てはいけない。

7) 臨時代走

① 打者及び走者が、事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。

② なお、臨時代走者は投手と捕手を除く打者のいちばん遠い選手とする。

③ 攻撃が終っても前記の選手が速やかに出場出来ない場合は、選手交代となる。

④ 頭部に投球または送球を受けたときには、必ず臨時代走を出すこと。

⑤ 2 アウトの時、投手および捕手に臨時代走を認める。(北関東連盟大会のみでの採用。但し、各全日本選手権大会でこのルールが採用された場合は各全日本選手権北関東連盟大会でも採用となる。)

8) 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトになり、ボールデットになる。リトル部門のみ採用。

9) 不正投球(ボーク)が発生した時は走者を進塁させず、投球しない場合でもボールを宣告し投球数に加算する。

10 連合チームルール

1) 連合チームの編成を希望するリーグは大会毎に「連合チーム登録申請」を連盟理事長に提出し承認を得なければ

ならない。

- 2) 連合を組むリーグは本年度のリーグ登録と各カテゴリーのチーム数を国際登録していなければならない。
- 3) 有資格選手数が9名以上のリーグは連合を編成してはならない。(連盟が認めた場合はその限りではない。)
- 4) 連合の編成は、ブロック内での編成を優先し、ブロック内編成不可の場合は他ブロックリーグとの編成を認める。ブロックを超えての調整はブロック長間で進める。
- 5) 各大会エントリー締め切りまでに承認を得る事とする。
- 6) 全日本選手権インターミディエイト大会においては、最大隣接する3リーグまでの連合編成を認める。
- 7) 全日本選手権リトル部門の編成は認められない。

VIII 監督、コーチ、選手の退場

- 1 次の場合、大会本部及び審判員は、監督、コーチ、選手を退場させる。
 - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグまたは審判員に対し、暴力または暴言をはいた場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 3) 退場のペナルティーをうけた監督またはコーチは連盟より相当日数出場停止の処分を受ける。
 - 4) VII-9-4)項およびX-18項の行為を審判員が見つけた場合攻撃側監督と該当者はその試合から退場となる。
 - ① 打者は安打、守備側失策等で塁に出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
 - ② 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。
 - ③ この時に走者が進塁した場合(犠打等)は、打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

IX スピードアップ

- 1 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
- 2 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
- 3 捕手はホームベースより前に出ないで野手に声をかける。
- 4 内野手はボール回しを定位置で行う。
- 5 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
- 6 打者は打者席を外さずに、ベンチのサインを見る。
- 7 ベンチからのサインは短くする。
- 8 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走る事。
- 9 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

X 補則

- 1 全てのリトルリーグ関係者は開幕式、各種大会の際、IDカードを着用すること。
- 2 連合リーグによる参加可能大会においては、理事会で了承を得て可能となる。
- 3 大会シードについて原則下記とするが、参加リーグ数によってはこの限りではない。
 - 1) 『理事長杯』春季北関東連盟大会

前年度全国選抜大会兼秋季メジャー大会の優勝、準優勝チームはシードとする。

2) 春季マイナー北関東連盟大会

前年度秋季マイナー大会の優勝、準優勝チームはシードとする。

3) 『J A 共済杯』全日本選手権リトル北関東連盟大会

『理事長杯』春季北関東連盟大会の優勝、準優勝チームはシードとする。

4) 『J A 共済杯』全日本選手権インターメディアット北関東連盟大会

春季インターメディアット大会の優勝、準優勝チームはシードとする。

5) 『A I G プレゼンツ M L B カップ』北関東連盟大会

春季マイナー北関東連盟大会の優勝、準優勝チームはシードとする。

6) 『武蔵コーポレーションティーボール大会』

春季ティーボール大会の優勝、準優勝、3位(2チーム)はシードとする。

7) 『春季インターメディアット大会』『春季ティーボール大会』『東日本選手権大会』『全国選抜大会 兼 秋季大会』『秋季マイナー大会』『フタバスポーツ杯ティーボール大会』は、シードを設けない。

4 ベンチ内のプレイについて

1) 常設の正規の球場は規則どおりとする。

2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。

5 選手からのーフスイングのリクエストを受ける。

6 全選手がファールラインを越えたときに、アピール権は消滅する。

7 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外へ出てもアウトである。但し、場外で選手が倒れた場合もボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。

8 監督、コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。

9 ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。グラウンド内でのダンス等は禁止する。

10 携帯電話および通信機器(PC、モバイル PC、Pad 等)の持ち込み、コーチボックスのコールドスプレー持参を禁止する。

11 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。

12 出場全選手に対して、胸部保護パッド着用を義務付ける。着用していない選手は試合に出場できない。

13 メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。

14 打者はバッターボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッターボックス内にとどめておかなければならない。

15 禁煙に協力願います。(電子タバコも含まれます。)受動喫煙防止の為、グラウンド内はもとより、バックネット裏本部席、ベンチ裏、応援席、は全て禁煙とし、その旨分かりやすい場所に大きく表示願います。各リーグの練習場所、球場への移動等選手と行動を共にする全ての場所を対象と上記の場所から離れ、選手たちから最も離れた場所に喫煙場所を設けてください。

16 リトル部門ではグラウンド内のネクストバッターサークルは作らない。安全な場所に素振りゾーンを設営する。(グラウンドにより設営できない場合もある。)

17 コーチャースボックスはファールラインから3m以上離すことが望ましい。

18 ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。

19 「関東四連盟、関東選手権大会規則」「東日本選手権大会規則」は別に定める。

20 グラウンド提供について：メジャーの場合は規格を満たしたグラウンドとする。

- ① 主管ブロック長は、年初に大会初日のグラウンドをブロックにて決定する。提供グラウンドが足りない場合は、主管ブロック長が他ブロックに協力依頼し決定する。

- ② 2日目は、初日提供リーググラウンドを優先して使用する。希望が重複した場合は抽選とする。
- ③ 3日目以降は上記②と同様とする。
- ④ 上記①から③に該当がない場合は、提供希望リーグのグラウンドとする。希望が重複した場合は抽選とする。
- ⑤ グラウンド提供がない場合は、主管ブロックが責任をもって提供する事。

以上

リトルリーグ特別ルール

7. 13 離 塁 規 定

投手が投手板に触れてボールを持ち、捕手がキャッチャースボックスに位置して捕球態勢に入っているときは、塁上の走者は投手の投げたボールが打者に達するまでは、塁を離れてはならない。一人の走者の違反は、他の総ての走者に影響を及ぼす。

- A. 投球が打者に達する前に塁上の走者が離塁し、打者が打たなかった場合は、走者は行動を続けることができる。その走者に対しプレイが行われ、アウトになればそのアウトは有効である。走者が目指している塁に安全に達したならば、その走者は投球前に占有していた塁に戻らなければならない。この場合はアウトにはならない。
- B. 投球が打者に達する前に塁上の走者が離塁し、打者が打った場合は、その走者及び他の塁上の各走者は行動を続けることができる。その走者または他の走者に対しプレイが行われ、アウトになれば、そのアウトは有効である。アウトにならなければ、その走者または他の走者は元の塁に戻るか、元の塁に最も近くて空いている塁に戻らなければならない。いずれの場合でも、打者は単打 または失策では一塁まで、二塁打では二塁まで、三塁打では三塁までしか進塁はできない。球審が塁打を決定する。
- C. 投球が打者に達する前に塁上の走者の誰かが離塁し、打者がバントか内野安打を打った場合は、得点は認められない。走者満塁のとき、打者が一塁に安全に到達すれば、三塁走者を除く各走者は、投球前に占有していた塁から進塁する。三塁走者は三塁から除かれ、得点は許されない。

注、以下の例を参照のこと

- 例 1. 一塁走者の離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、走者は二塁に進塁する。
- 例 2. 二塁走者の離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、走者は二塁に戻る。
- 例 3. 三塁走者の離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、走者は三塁に戻る。
- 例 4. 一塁走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、走者は三塁まで進塁する。
- 例 5. 二塁走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、走者は三塁まで進塁する。
- 例 6. 三塁走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、走者は三塁に戻る。
- 例 7. どの塁の走者の離塁が早すぎても、打者が三塁打か本塁打を打った場合は、全塁の走者は得点を許される。
- 例 8. 一塁および二塁走者の何れかの離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、それぞれ二塁および三塁に進塁する。
- 例 9. 一塁および二塁走者の何れかの離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、一塁走者は三塁へ進み、二塁走者は得点を許される。
- 例 10. 一塁および三塁走者の何れかの離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、一塁走者は二塁へ進み、三塁走者は三塁にとどまる。
- 例 11. 一塁および三塁走者の何れかの離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、一塁走者は三塁へ進み、三塁走者は得点を許される。
- 例 12. 二塁および三塁走者の何れかの走者の離塁が早く、打者が一塁に安全に達した場合、進塁はできない。

例 13.二塁および三塁走者の何れかの走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、二塁走者は三塁へ進み、三塁走者は得点を許される。

例 14.満塁のとき、何れかの走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、一塁走者は三塁へ進み、二塁および三塁走者は得点を許される。

例 15.満塁のとき、何れかの走者の離塁が早すぎたが、打者が内野へバントまたは打撃により安全に一塁に達した場合は、三塁走者を除く全走者は一個の進塁ができる。三塁走者は除かれ、得点はあげられないがアウトにもならない。プレイ中、何れかの塁上でアウトがあり空塁が生じた場合は、三塁走者は三塁に戻り、他の走者は元の塁に戻るか、元の塁に最も近い、空いている塁に戻る

例 16.満塁のとき、何れかの走者の離塁が早すぎたが、打者が四球または死球を受けた場合は、各走者は一個進塁し、得点を許される。

注 1 審判員が走者の離塁が早すぎることに気がついた場合は、直ちに合図の旗かハンカチを落として、違反を指摘しなければならない。

注 2 以上例示したとおり、打者走者は最後に安全に獲得した塁にとどまることを前提としている。

注 3 ティーボールでは、走者は、打者がボールを打つまで占有している塁に触れていなければならない。

走者の離塁が早い場合の日本での処置方法

1. 投球が打者に達する前に走者が離塁すれば、審判員は赤いハンカチを落とす。
2. 一人の走者の違反は全走者に及ぶ。
3. 違反した走者がアウトになっても、ペナルティーは消えない。
4. 走者の離塁が早いときに打者が打てば、打者の打ち直しはない。
5. 打者は塁打の数だけ進塁する。
6. 走者は戻る塁があれば戻る。
7. 満塁のときは、打者が内野に打って一塁に生き、いずれの走者もアウトにならないときは、得点を認めずプレイをそのまま続ける。三塁走者は「消滅」として扱う。なお、外野に打球が飛んだときには、得点を認めそのままプレイを続ける。
8. 走者を戻すときは「タイム」をとり、全走者に指示する。
9. 処置方法の番号の若い方を優先する。

以上

全員出場ルール

全日本選手権北関東連盟大会(リトル・インターミディエット)適用

- I 全員出場義務
- 1 試合当日ベンチ入りした選手は全員試合に出場しなければならない。
 - 1) 1 3名以上の選手が試合に参加している場合、当日の名簿上の全選手が、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。
 - 2) 1 2名以下の選手で試合に参加している場合は、当日の名簿上の全選手が、守備において最低6つの連続したアウトと、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。
 - 2 監督は本規定を満たすことに責任を持たなければならない。この規則による全員出場義務規定を満たさないことは講義の基礎となる。メンバー表に記載された選手の一人以上がこの条件を満たさず抗議されるか大会本部に伝えられた場合、監督は退場となり、残りの試合からも解任され、交代することもできない。さらなるペナルティーもある。
 - 3 すべてのコールドゲームに全員出場義務は適用しない。
- II 選手交代／再出場
- 1 負傷して退場した選手は出場条件を満たさなくても良い。
 - 2 選手の病気、負傷、退場で9人の選手を揃えられなくなった場合は、控え選手の中から交代選手を指名する。ただし、その人選は相手チームの監督が行うものとする。退場になった選手はこの再出場の対象とはできない。
 - 3 先発選手は1打席または連続3アウトの守備をしなくても交代できる。
 - 4 選手交代で退いた選手は、元の打順で再出場することになる。
 - 5 交代で初めて試合に出場した選手は、全員出場義務を完了するまで交代できない。
 - 6 投手が全員出場義務を完了しており、打者の時に交代選手が出場した場合、実際に降板したのでなければ一度に限り投手として再出場できる。
 - 7 全選手が再出場できる。また再出場回数に制限は設けない。(全選手が何回でも再出場できる。)
- III スペシャルピンチランナー
- 1 1イニングに1回、1試合に2回に限り、攻撃側選手に対してその時点で打撃順に加わっていない選手を使用してスペシャルピンチランナーを起用することが出来る。
 - 2 スペシャルピンチランナーは1人の選手に対して1回のみ使用できる。
 - 3 スペシャルピンチランナーに交代された選手はラインナップから外れるわけではない。
 - 4 スペシャルピンチランナーがそのまま残った場合は選手交代されたものとみなされ、打撃順に入っている間はスペシャルピンチランナーとして起用できない。
 - 5 4)で打撃順に入った選手がさらにほかの選手と交代した場合やその他の打撃順に入っていない選手は再度スペシャルピンチランナーに起用することができる。
(例：初回到に3番打者が四球で出塁し、スペシャルピンチランナーと交代した。3回にも四球で出塁したが、初回到に1度交代しているため、その試合中はスペシャルピンチランナーとの交代はできない。)

【注釈】

全員出場規定違反は悪質なものでない限り試合の勝敗に影響を与えず、監督に対するペナルティーが科されることになりました。そのため、より防止効果を高める狙いで 試合終了後においてもアピールを認めることになりました。このアピール権は対戦相手の監督のみならず、競技役員にも与えられています。試合関係者全員で 違反を予防しようという意図によるものです。

リトルリーグ関東四連盟 関東選手権大会規則

平成 31 年 2 月改訂
リトルリーグ関東四連盟連絡協議会

I 大会規則

2019年リトルリーグ公認競技規則、トーナメント規則およびガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録

1. 選手登録は、リトルリーグ年齢 12 歳および 11 歳の男女とする。(4 月～8 月生まれの 13 歳の選手を認める)
秋季大会は、学年を採用して、6 年・5 年に限定する。
マイナー選手権大会は、学年を採用して、4 年・3 年に限定する。
各連盟で承認された混成チームを認め、全て「連合リーグ」と称する。
選手は 9 名以上 20 名までの連番とする。指導者は監督 1 名コーチ 2 名以内の成人とする。
ただし、登録選手のうちベンチ入りが 11 名以下の場合、コーチは 1 名となる。
ベンチを外れた 1 名のコーチは、グラウンドに入ることも認められない。その場合、外から選手またはベンチと会話することは許されない。
2. 登録は、各連盟規定の用紙を使用し、当該連盟の承認を受け大会本部に提出する。

III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。
なお、白のアンダーシャツは認めない。
連合リーグは統一することが望ましいが、自リーグのユニホームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。
2. 監督・コーチの上着は、白の襟付きシャツ、スラックス（ズボン）は下記のとおりとする。
 - (1) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュ各色系を可とする。
 - (2) 華やかな色は不可。
 - (3) 全体が単一色であること。(別色のライン等があるものは不可)
 - (4) チノパンは可。
 - (5) ジーンズは不可。
 - (6) ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「(1) 項」に順ずるとする。
 - (7) 監督、コーチは同一の服装であること。
 - (8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
 - (9) 靴、ベルトの色は別色でも可とする。
3. 監督・コーチの帽子は、選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

1. 捕手は試合および練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも

- 可)、マスク(スロートガードのどあて付)、ファウルカップを着用しなければならない。
2. 非木製バットは、U S A Bat 規格に合致したものでなければならない。(規則 1.10 参照)
 3. 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。審判員がそれらを確認する。
 4. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
 5. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、派手なものは好ましくない。なお、投手は使用出来ない。
 6. サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
 7. ヘルメットの顎ひもをきちんと着用することが望ましい。また、フェイスガード付き、Cフラップ付きヘルメットの使用を認める。
 8. グラブのひもは、必要以上に長いものは認めない。
 9. 出場選手全員に胸部保護パッドの着用を義務付ける。

V 試合の準備

1. ベンチは組合せ番号の若い番号を一塁側とする。
2. 攻守は主将により、試合当日決定する。
3. シートノックは後攻より7分間とするが、場合によってはカットする場合もある。
4. 試合前のノックの際、登録選手が不足の場合3名まで補助を認める。
5. 試合前のブルペンでの投球練習を監督・コーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営

2. 延長戦は7回までとし、7回で決着しない場合は8回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - (1) 攻撃側は無死二塁から始める。
 - (2) 打者は7回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が2塁走者となる。
例：5番打者がその回の先頭打者なら4番の打順の選手が2塁走者となる。ルール上適格な代走者として出場させることもできる。
 - (3) 投手は7回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げる。
【注】マイナー大会は6回制とし延長戦は行わない。同点の場合は7回より同方法にてタイブレーク制を採用する。
3. 全試合、3回15点差または4回以降10点差によるコールドゲームを採用する。
4. 振り逃げ
次の場合、打者は走者となる。
 - (A) 走者が一塁にいないとき、(B) 走者が一塁にいても二死のとき、捕手が第三ストライクと宣告された投球を捕らえなかった場合。
【注1】第三ストライクと宣告されただけで、まだアウトになっていない打者が、気がつかずに、一塁へ向かおうとしなかった場合、その打者は“ホームプレートを囲む土の部分”を出たらただちにアウトが宣告される。
【注2】マイナー大会では振り逃げ規則は適用しない。
5. ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。
 - (1) 自チームのユニホームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。
 - (2) 2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。

- (3) 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。
 - (4) ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。
 - (5) ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。
 - (6) コーチスボックスから出て自チーム打者および塁上の走者に指示した場合は攻撃側のタイム数に数える。
 - (7) 相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2回目は監督が直ちに退場となる。
6. ベンチ内の監督およびコーチは、みだりにベンチを離れることはできない。
 7. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニング1回である。
 なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督、コーチが選手に指示する場合は回数に数えない。
 ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。
 8. 監督、コーチが、1イニングに同一投手のもとへ1度行くことができるが、2度目にはその選手は投手から退かなければならない。また1試合に同一投手のもとへ2度行くことができるが、3度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが指示する場合は、マウンドで行うこと。この時に捕手および内野手が集合しても良い。監督、コーチおよび選手はスピーディーに行動すること。
 9. 試合中に野手がマウンドに集まることは規制しない。
 ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
 10. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
 11. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
 もしこのような疑いがあるとき審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。
 12. ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
 13. ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」にジェスチャーとコールをする行為を禁止する。
 14. 臨時代走
 - (1) 打者および走者が、事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
 なお、代走者は投手と捕手を除く打順の一番遠い選手とする。
 - (2) 攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場出来ない場合は、選手交代となる。
 - (3) 頭部に投球および送球を受けた時には、必ず臨時代走を出すこと。
 15. 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトになる。
 16. 不正投球が発生した時は走者を進塁させず、投球しない場合もボールを宣告して投球数に加算する。
 17. 試合開始、終了の挨拶の時に監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督・コーチの退場

1. 次の場合、大会本部および審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
 - (1) 自軍のベンチおよび応援席の中から、相手リーグおよび審判員に対し暴力、暴言を吐いた場合、監督および当該者を退場させる。
 - (2) 審判員の判定および指示に従わない場合、監督および当該者を退場させる。
 - (3) VIの9、10で、同様の行為を再度審判員が見つけた時は
 - ① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。
 - ② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
 - ③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。
 この時に走者が進塁した場合(犠打等)は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となった時

1. 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。
この場合全ての記録は有効となる。
2. 試合成立（4回完了または4回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
3. 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合は、サスペンデッドゲームとする。
4. 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも、先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。
5. サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに20球以下の投球数の投手は、続きの試合においてその投手お投球数はゼロからカウントする。
6. 中断までの投球数が21～40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。
7. 41球以上投げた投手は、1試合空けるか規定の休息日が必要となる。

IX 特記事項

1. 「全員出場の規則」と「スペシャルピンチランナー」は、採用しない。
2. 投手の規則
 - (1) 降板した投手はその試合では投手に戻れない。
 - (2) 投手は1日および1試合に投球できる投球数は下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
11-12歳選手	85球
9-10歳選手	75球

- (3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。
- (4) 投手が1試合に20球以下の投球をした場合は、次の試合に投手として出場できる。
ただし、同日の次の試合の投球数は最大投球数から前の試合の最終打者を完了した時点の累積投球数を減じたものとする。
- (5) 投手が21球以上の投球数の場合は、1試合空ければ登板は可能である。
なお、当日2試合に連続登板し、2試合の合計投球数が21球以上になった場合は、1試合空けなければならない。
または、以下の休息日をクリアしていれば連続した試合に登板できる。

1日の投球数	休息日
66球以上	4日
51～65球	3日
36～50球	2日
21～35球	1日
20球以下	不要

休息日はいずれも最終打者と対峙した時点での1球目の投球数が基準となる。

注：いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。

(6) 投手が4球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が40球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレイできる資格を有する。

1. その打者が出塁する。
2. その打者がアウトになる。
3. 第3アウトが成立し、そのインングが終了する。

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレイすることができる。

(7) 試合で4インング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4インングはアウト数（12）ではなく、守備についたインング数である。

また、4インングは1試合での数であり、2試合行った場合は合計インング数ではなく、それぞれの試合でのインング数とする。

(8) 試合で3インング以内捕手を務めた選手が投手に交代し、同日2球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦している時に投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- a. その打者が出塁する。
- b. その打者がアウトになる。
- c. 第3アウトが成立し、そのインングが終了する。

3. 申告敬遠

次の場合に、打者は走者となり、アウトになることなく安全に一塁に進める権利が与えられる。

（ただし、打者が一塁に進んで、それに触れることが条件となる）

1) 審判員が“四球”を宣告した場合

2) 投球前に守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”が伝えられた場合

注1：その指示は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。投手の投球数には「4球」が加えられる。

× スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
6. 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走る。

9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

XI 補貝リ

1. ベンチ内のプレイについて

(1) 常設の正規の球場は競技規則通りである。

(2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。

2. 選手からのーフスイングのリクエストを受ける。

3. 全選手がファウルラインを越えた時に、アピール権は消滅する。

4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んでも倒れなかった場合はボールインプレーとなる。

5. ネクストバッタースボックスは作らない。次打者はベンチ出入口付近に待機すること。

6. 監督・コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。

7. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。

8. 選手はユニホームをきちんと着用すること。

9. グラウンド（ベンチを含む）内は禁煙である。

10. メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。

11. 携帯電話の持ち込み、コーチボックスの選手のコールDSPレー持参を禁止する。

12. 打者はバッタースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッタースボックス内にとどめておかなければならない。

例外：

① スイング時、スラップ（走りながらの打撃）時、あるいはスイング途中停止時

② 投球により打席から出ざるを得なくなった場合

③ 打者が“ドラッグバント”を試みた場合

④ 捕手が投球を捕球できなかった場合

⑤ 何らかのプレイが試みられた場合

⑥ タイムが宣告された場合

⑦ 投手がマウンド周りのダートエリア（土の部分）から外に出たり、投手が捕手から返球を受けたのちに投手板から5フィート（1.52m）以上離れたり、捕手がキャッチャースボックスの外に出た場合

⑧ スリーボール後の投球を打者がボールと判断したにもかかわらずストライクであった場合

ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバッタースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。警告後に再度バッタースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。一人の打者に何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとなるが、走者は進塁しない。

注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバッタースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

以上

添付資料4

ティーボール規約

1 競技場

- 1) 外野フェンスはホームベースより4 5メートルとする。
- 2) バッターサークルは半径3メートルとする。
- 3) ファウルラインは半径7メートルとする。(2011年改正)
- 4) ピッチャーサークルは半径1メートルとする。
- 5) バッターボックスはホームベースの半分(21.6cm)捕手よりに移動する。
- 6) 一塁ベースはダブルベースを使用する。
- 7) その他はリトルリーググラウンドと同一とする。

2 用具

- 1) 試合球はティーボール公認球(ゼット)を使用する。
- 2) バットはリトル公認バット、ティーボール用公認バットとする。
尚、軟式用バットを認めるが、大会本部が認めたバットのみとする。
- 3) 捕手はヘルメットのみを着用する。
- 4) 投手に野手と同様に手袋、リストバンドの使用を認める。

3 登録

- 1) 選手は3年生以下とする。
- 2) 指導者は成人で監督1名、コーチ5名以内とする。
- 3) 複数のリーグの混成チームも登録できる(2010年再確認)

4 服装

- 1) 監督、コーチ、選手の服装はスポーティなものであれば自由である。
- 2) ベンチに入る者は、必ず野球帽を着用すること。

5 試合の運営

- 1) 試合は6回又は4 5分とする。ただし大会によっては時間の変更あり
- 2) シートノックは5分間とするが、大会によってはカットする場合がある。

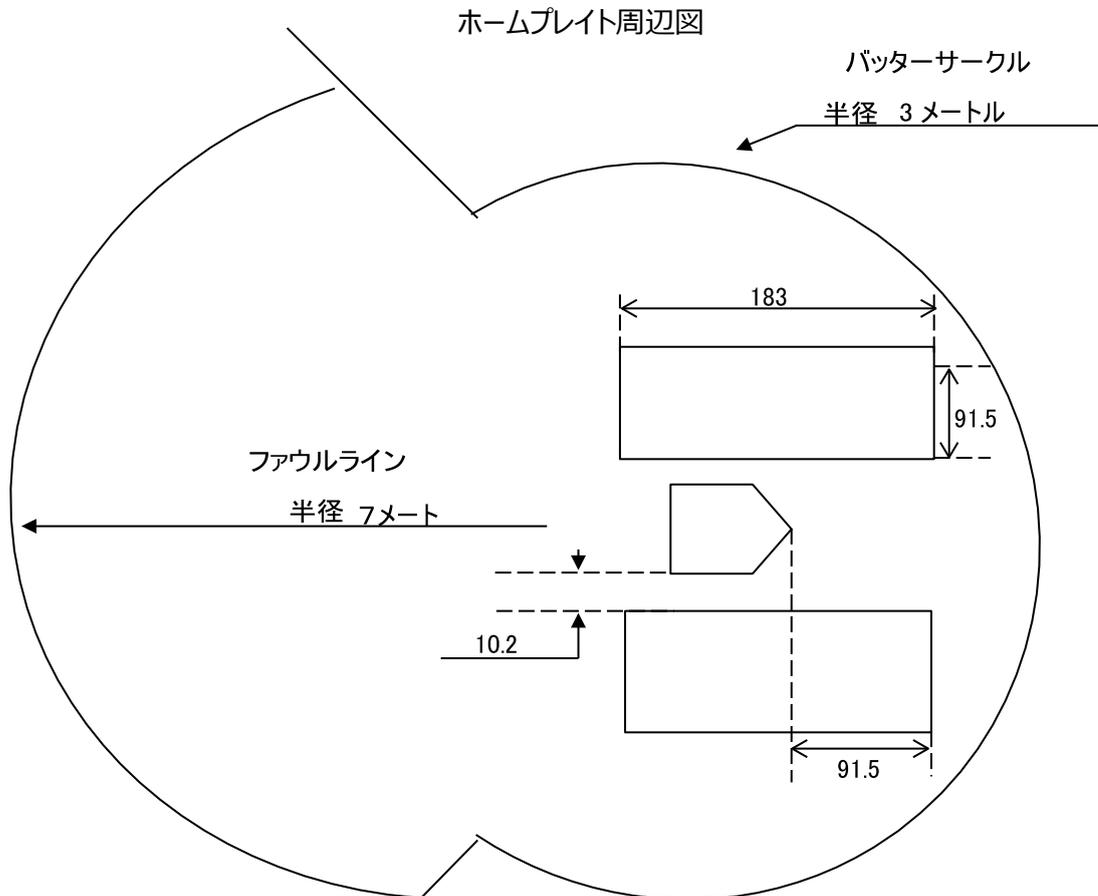
6 競技方法

- 1) 攻守は3アウトまたは打者一巡(9名)で交代する。
- 2) 1イニングで9人目の打者のときはアウトカウントを2アウトとする。
- 3) 守備のときに外野に2人の指導者が入ることができる。ただし、準決勝からは入れない。
- 4) ベースコーチは2人とも大人でもよい。
- 5) 攻撃側の監督またはコーチは審判の横にいて、ティーバーの調整、打者への指導することができる。
- 6) 投手は審判の「プレイ」の合図があったら速やかに、投球動作(偽投)を行う。
- 7) 投手が投球姿勢に入ったら打撃姿勢を変えてはならない。
- 8) 打者はティーバーの上のボールを「フルスイング」で打つ。
- 9) 三振は適用しない。
- 10) 走者は打者が打つまで離塁できない。

- 11) タイムの回数に制限はないが常にスピードアップを心がけること。
- 12) ヘッドスライディングは進塁、帰塁方向ともアウトになる。
- 13) 延長は（6回又は45分が過ぎた場合）はタイブレイク方式（1死走者2・3、打者は継続）を採用する。
「タイブレイク方式」とは
 - ① 1死2塁・3塁とする
 - ② 打者は前回より引き継ぐ
 - ③ 走者は2塁は前打者3塁は前々打者とする
 - ④ 3アウトまで攻撃する

7 審判上の注意点

- 1) 外野に飛んだボールが内野に戻った時点で「タイム」をとり「ボールデット」にする。
ただし、中継プレイの時はプレイを続ける。また、内野内の打球によるプレイはプレイが連続しているか否かを見極めて「タイム」をとる。
- 2) 打球が7メートルのファウルラインを超えたとき、又はライン上るときは全てインプレイである。
ファウルグラウンドも7メートルのラインがあるものとして扱う（2011 改正）
- 3) フルスイングしない打者はファウルボールとし、打ち直しにする。
- 4) フルスイングしてファウルゾーンを超えたゆるいゴロの打球もインプレイである。
- 5) 一塁のダブルベースは一つのベースとして扱う。従って野手及び打者走者はどちらに触塁しても
かなわない。ただし打球の判定は野手用ベース（インフェールド内のベース）の外野側角で行う。
- 6) 走者がホームインするときや本塁でプレイがあるときは、ティースタンドを素早く移動する。
- 7) ティーボールではタイム中でもアピールを受ける。



リトルリーグ四関東連盟 リトルティーンボール関東親善大会規則

リトルリーグ四関東連盟
連絡協議会

- バット** ▷ リトルリーグ公認の金属及び木製・金属ティーンボール用バットとする。
- 使用球** ▷ ゼット(ZETT)社製。
- 服装** ▷ 服装は自由(Tシャツ短パンも可)、背番号は1番からの連番とする。
背番号は四連盟指定のゼッケンを着用する。選手は1番から20番まで監督1名コーチ5名各名称入りのゼッケンを着用する。
監督・コーチの服装は同一でスポーティなものとする。短パン不可、監督・コーチは専用ゼッケン着用。
- チーム** ▷ 小学校3年生以下の男女選手とし、ベンチ入りは12名以上20名以内で監督1名コーチ5名以内。
- 登録** ▷ 各連盟の登録用紙を使用し、大会本部に提出。
- 設備** ▷ 外野フェンス迄の距離は45m。バッターボックスのラインを入れる。ピッチャーサークルは半径1m、塁間・コッチャースボックスはリトルグラウンドと同じ。ホームベースより7mに飛球のファールラインを入れる。
- 試合** ▷ 攻撃は3アウト制。
リーグ戦は、6回又は制限時間経過後同点の場合は引き分けとする。
1イニングで9人目の打者が打席に入ったときは、アウトカウントを2アウトとする。
シートノックは5分間。
試合開始前及び試合終了時の選手、監督、コーチの動作はリトルリーグと同一。
- 大会** ▷ リーグ戦方式で行う。
①守備側コーチは守備選手にアドバイスの為2名以内が入れるが外野のみ。
②攻撃側コーチはコッチャースボックスに入り自リーグ選手にアドバイスの為2名が入れる。
又1名は球審の横で打者を指導すると同時に投手からの返球を受けて球審に手渡す。
又、バッティング時にバットを投げ捨てる選手が見受けられるので、危険防止の為絶対行わないように指導すること。コーチは過激な言動で指示をしないこと。
- 審判** ▷ 4人制とする。ホームでのプレーがある場合速やかにティーンを排除すること。
- 安全** ▷ 捕手、走者はヘルメットを使用すること。ベンチには救急箱を用意し、選手の安全には万全の体制を整えておくこと。スポーツ保険には必ず加入のこと。
ベンチ内での素振りを禁ずる。
- 応急処置** ▷ 主催者は大会中の負傷に応急処置を施すが、それ以上の責任は取らない。
- 競技方法**
- 1 競技者は9名。背番号(ゼッケン)はバッター順とする。
 - 2 守備側選手9名が定位置に着いたのを確認し、球審が「プレイ」をコールすると同時に、投手は投げる動作を行う。投球動作が終了と同時にティーン上のボールを打つ。この動作はフルスイングでなければならない。ハーフスイング・バントは認められない。
ティーンにボールをセットするのは球審が行う。
 - 3 打球の判定
 - ① 7mのファウルゾーンを越えた打球はフェアとする。
 - ② ホームベースより7mのラインを引く。このラインを越えない打球はファウルボールとする。
上記の場合、打者がボールとティーンを同時に打つことがあるが、打球が7mラインを越えたらフェア及びアウト何れも打球として認める。
 - 4 投手が投球姿勢に入ったら打者は、打撃姿勢を変えてはならない。
 - 5 三振は無し。
 - 6 走者は打者がボールを打つまで離塁出来ない。(赤いハンカチのルール適用)
 - 7 ティーンの高低の調整は攻撃側コーチが行う。
 - 8 抗議は認められない。
 - 9 攻撃側・守備側のタイム回数について回数制限はないが、極力かけないよう努力すること。
 - 10 ボールが内野にいる内野手に戻りプレイが一段落したら、審判はタイムを宣告してボールデットとする。
 - 11 ヘッドスライディングは禁止。

この規則は2013年関東親善大会より適用する

2021年度北関東連盟大会内規及び運営要項

I 春季大会

1 『理事長杯』春季北関東連盟大会

2 1) エントリー数によりトーナメントまたはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。

2) 日程 2月28日～3月14日

3) 主管 西部ブロック

4) 抽選会は2月13日（土）連合チームを認める

3 上位2リーグは神奈川連盟ミスノ杯春季関東選手権大会（4/17、18）に出場する。ただし1リーグ1チームのみ出場できる。

4 2021年リトルリーグ年齢表

凡例：	H26	⇒誕生日(西暦)
	2014年	
	7	⇒リトル年齢

学年	誕生日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	(4/2~4/30)												(3/1~4/1)
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22								
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年								
	11	11	11	11	11								
小学6年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H21	H21	H21
	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2009年	2009年	2009年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12

II 春季インターミディエット北関東連盟大会

1 1) 出場リーグ数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）でおこなう。

2) 日程 2月28日～3月14日

3) 主管 南部ブロック

4) 抽選会は2月13日（日）連合チームを認める

2 上位2リーグは東関東連盟ミスノ杯春季関東選手権大会（4/3、/4）に出場する。

ただし1リーグ1チームのみ出場できる。

3 2021年リトルリーグ年齢表

凡例：	H26	⇒誕生日(西暦)
	2014年	
	7	⇒リトル年齢

学年	誕生日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	(4/2~4/30)												(3/1~4/1)
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22								
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年								
	11	11	11	11	11								
小学6年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H21	H21	H21
	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2009年	2009年	2009年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12

※北関東連盟では、中学2年の参加は認めない。

大会要項2

Ⅲ 春季ティーボール北関東連盟大会

- 1) 日程 3月21日
- 2) 主管 中央ブロック
- 3) 参加資格 3年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
- 4) 参加チーム数 北関東連盟所属リーグによるトーナメントで行う。
- 5) 抽選会 3月13日(土)
- 6) リトルリーグ北関東連盟大会規約「ティーボール規約」を適用する。
- 7) 登録書の提出は不要とする。(試合当日メンバー表を提出すること) 大会要項2

Ⅳ 『J A 共済杯』(サンケイスポーツ杯)全日本選手権インターメディアット北関東連盟大会

※ 中学1年生の登録は12月31日までの入団生に限る

- 1) エントリー数により運営を決定。すべて全日本選手権大会ルールで行う。
 - 2) 日程 4月11日～4月25日
 - 3) 主管 中央ブロック
 - 4) 抽選会は3月27日(土) 連合チームを認める
- 2 優勝リーグは東関東連盟主管(5/21～/23)第9回インターメディアット全日本選手権大会に出場する。

3 2021年リトルリーグ年齢表

凡例：

H26	⇒誕生年(西暦)
2014年	
7	⇒リトル年齢

誕生月	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22							
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年							
	11	11	11	11	11							
小学6年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H21	H21	H21
	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2009年	2009年	2009年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12

※北関東連盟では、中学2年の参加は認めない。

V 『JA 共済杯』第54回全日本選手権北関東連盟大会

※ 中学1年生の登録は12月31日までの入団生に限る

- 1) エントリー数により運営を決定。すべて全日本選手権大会ルールで行う。
 - 2) 日程 4月25日～5月2日
 - 3) 主管 東部ブロック
 - 4) 抽選会は3月27日(土)
- 2 優勝リーグが信越連盟主管(7月22～25日)「JA 共済杯」第54回全日本選手権に出場する。
 - 3

2021年リトルリーグ年齢表

凡例:	H26	⇒誕生年(西暦)
	2014年	
	7	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学4年	H23	H23	H23	H23	H23							
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年							
	10	10	10	10	10							
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年						H20	H20	H20	H20	H21	H21	H21
						2008年	2008年	2008年	2008年	2009年	2009年	2009年
						12	12	12	12	12	12	12

VI 『武蔵コーポレーション杯』第37回ティーボール連盟大会

- 1) 日程 5月3日(祝・月)
 - 2) 主管 中央ブロック
 - 3) 参加資格 3年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
 - 4) 参加チーム数 北関東連盟所属リーグによるトーナメントで行う。
 - 5) 抽選会は4月24日(土)
 - 6) リトルリーグ北関東連盟大会規約「ティーボール規約」を適用する。
 - 7) 登録書の提出は不要とする。(試合当日メンバー表を提出すること)
- 2 リトルティーボール関東親善大会(5月16日北関東連盟主管)に主管リーグと3代表が出場する。

大会要項4

Ⅶ 『A I GプレゼンツM L Bカップ』北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）でおこなう。
 - 2) 日程 5月5日～5月23日
 - 3) 主管 北部ブロック
 - 4) 抽選会は4月24日（土）連合チームを認める。
- 2 優勝リーグは東北連盟主管『A I GプレゼンツM L Bカップ』全国大会（石巻市）（8月20日～22日）に出場する。（5年生4年生に限る）
- 2位、3位チームは7月3日、4日東京連盟にて行われる「第5回A I Gプレゼンツ関東選考会」に出場する。

3 2021年リトルリーグ年齢表

凡例：

H26	⇒誕生年(西暦)
2014年	
7	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学4年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10

Ⅷ 「産経新聞旗争奪」第15回東日本選手権北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）でおこなう。
 - 2) 日程 6月6日～6月20日
 - 3) 主管 中央ブロック
 - 4) 抽選会は5月22日（土）連合チームを認める。
- 2 優勝・準優勝チームはSSK杯第15回東日本選手権大会（7/30～8/1、東北連盟主管：青森県）に出場する。

3 2021年リトルリーグ年齢表

凡例：

H26	⇒誕生年(西暦)
2014年	
7	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22							
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年							
	11	11	11	11	11							
小学6年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H21	H21	H21
	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2009年	2009年	2009年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12

大会要項5

IX 『KEIO CUP』マイナー北関東連盟大会

- 1) 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）でおこなう。
9) 日程 7月11日～7月22日
3) 主管 北部ブロック
4) 抽選会は6月26日（土）連合チームを認める。

2 2021年リトルリーグ年齢表

凡例：	H26	⇒誕生日(西暦)
	2014年	
	7	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学3年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10

X 『J A 共済杯』全国選抜北関東連盟大会 兼 秋季大会

- 1) 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）でおこなう。
2) 日程 9月5日～19日
3) 主管 東部ブロック
4) 抽選会は8月28日（土）連合チームを認める
- 2) 優勝リーグは全国選抜大会（10/29～31、九州連盟主管・諫早）に出場する。
- 3) 2位、3位リーグは「ミズノ杯」秋季関東選手権大会（11/13、14、東関東連盟主管）へ出場する。
（ただし、1リーグ1チームのみ出場できる。）

4 2021年リトルリーグ年齢表

凡例：	H26	⇒誕生日(西暦)
	2014年	
	7	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11

大会要項6

XI 『ゼット杯』秋季マイナー大会

- 1) 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）でおこなう。
- 2) 日程 9月20日～9月26日
- 3) 主管 西部ブロック
- 4) 抽選会は8月28日（土）連合チームを認める
- 2) 優勝、準優勝リーグは「ゼット杯」秋季関東選手権大会（11/13、14、東京連盟主管）へ出場する。（ただし、1リーグ1チームのみ出場できる。）
- 3) **2021年リトルリーグ年齢表**

凡例：	H26	⇒誕生日(西暦)
	2014年	
	7	⇒リトル年齢

学年	誕生日 (4/2~4/30)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学3年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9

XII 第7回『フタバスポーツ杯』秋季ティーボール北関東連盟大会

- 1) 1) 日程 10月10日
- 2) 抽選会 10月2日（土）
- 3) 主管 南部ブロック
- 4) 参加資格 2年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
- 5) 参加チーム数 北関東連盟所属リーグによるトーナメントで行う。
- 6) リトルリーグ北関東連盟大会規約「ティーボール規約」を適用する。
- 7) 登録書の提出は不要とする。（試合当日メンバー表を提出すること。）
- 2) 上位チームは11月21日(日)東京連盟主管「東日本地区ティーボール親善大会」に出場する。

XIII 秋季インターミディエット大会

- 1) 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）でおこなう。
- 2) 日程 10月17日～10月31日
- 3) 主管 北部ブロック
- 4) 抽選会は10月2日（土）連合チームを認める
- 2) **2021年リトルリーグ年齢表**

凡例：	H26	⇒誕生日(西暦)
	2014年	
	7	⇒リトル年齢

学年	誕生日 (4/2~4/30)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学4年	H23	H23	H23	H23	H23								
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年								
	10	10	10	10	10								
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11

2020年度 リトル選手登録年齢早見表

北関東連盟競技部 2021年1月作成

リトルリーグにおける選手の年齢は、国際登録の関係から下記のように区分されます。各種登録書類に年齢を記入する際は、この早見表を確認のうえご記入下さいませようお願い致します。なお、連盟およびブロックが主催する大会は、理事会の承認を得て登録選手の年齢枠を変更する場合がありますのでその指示に従ってください。

2021年リトルリーグ年齢表

H26	⇒誕生年(西暦)
2014年	
7	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学2年	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7
小学3年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学5年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H20	H21	H21	H21
	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2008年	2009年	2009年	2009年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12
中学2年	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H19	H20	H20	H20
	2007年	2007年	2007年	2007年	2007年	2007年	2007年	2007年	2007年	2008年	2008年	2008年
	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13

以上

変 更 届

日本リトルリーグ野球協会
リトルリーグ北関東連盟
競 技 部 殿

年 月 日 の試合において

監督、コーチ、引率責任者の変更を下記のとおりお届けします。

	監 督	コ-チ	引率責任者
登 録 者 名			
変 更 者 名			

年 月 日

リーグ名

会長名

※会長名は会長・副会長・事務局長名印（三役）

印